◀今もうっそうと生い茂る日光杉並木
砲弾が打ち込まれた杉も見ることができる

日光には、「八重の桜」に通じる歴史があった?!

～日光と会津をつなぐ、その知られざる歴史を歩く～

今年のＮＨＫ大河ドラマは、同志社大学を設立した新島譲の妻、“ハンサム・ウーマン”と呼ばれた新島八重が主人公の「八重の桜」。八重を演じる綾瀬はるかさんの好演もあって、なかなか好評のようですね。

ところで、この「八重の桜」は、八重の出身地・会津若松、そして幕末～明治期の動乱が舞台となっていますが、実は、日光と会津には、知る人ぞ知る深い歴史のつながりがあるのです。

会津藩の初代藩主・保科正之公は、日光山輪王寺大猷院（たいゆういん）廟に眠る徳川幕府三代将軍・家光公の異母弟。最後の藩主となったのは、ドラマでは綾野剛さんが凛々しい演技を披露している松平容保（かたもり）公ですが、維新の後、明治になって日光東照宮の宮司に就任します。さらに、西田敏行さん演じる、容保公を支える会津藩家老の西郷頼母（たのも）は、容保公の宮司就任に伴って、東照宮の禰宜（ねぎ）として日光にやってくるのです。

ドラマはこの後、戊辰戦争へと展開していきますが、日光もその舞台の一つとなりました。慶應４年（1868年）４月には、大鳥圭介率いる旧幕府軍と板垣退助率いる新政府軍が野口十文字付近で激突（野口十文字の戦い）し、その際に砲弾が打ち込まれたと言われる杉を今でも見ることができます。

日光総合支所（旧日光市役所）の裏手

◀会津藩士・柿澤勇記も日光に眠る

また、日光市内には会津藩士のお墓もあるんです。その一つ、上鉢石町の日光総合支所（旧日光市役所）の裏手にある観音寺境内には、宇都宮城の戦いで重傷を負い日光の地で亡くなった、大鳥圭介軍の参謀だった会津藩士・柿澤勇記が眠っています。

このほかにも、市内には、日光と会津、戊辰戦争の歴史を偲ぶ旧跡があちこちに残っています。「八重の桜」をテレビで楽しんだ後は、日光のまちを歩いていただき、そんな過去の歴史を思い起こしながら、八重たちが生きた時代の面影を感じてみてください！

家康公の御神体は栗山に隠されていた

野門東照宮（のかどとうしょうぐう）

栗山　野門地区

▲ 御神体（上段）
徳川家康像
（下段）左から
女峰山、男体山、
太郎山の神様

◀野門東照宮（正面）

戊辰戦争の際、明治新政府軍の攻撃が日光方面に及ぶにつれ、旧幕府軍は日光東照宮にあった家康公の御神体を会津鶴ヶ城に運んで守ろうとしました。しかし、会津も攻撃されるに至り、会津藩主・松平容保は会津と日光の中間に位置する野門地区の小栗久右衛門に御神体を守るよう命じました。

戦難を免れた御神体はその後、長年にわたり隠され続け、歴史の闇に葬り去られましたが、昭和45年に小栗家の子孫によってその存在が公にされました。この歴史的事実を広く世間に伝えようと栗山東照宮（現野門東照宮）が建立され、一般の人も参拝できるようになりました。

地元栃建協会員が選ぶ

日光 裏スポット巡り

あなたはいくつ探せますか？

「日光」の観光スポットと言えば、世界遺産・日光の社寺や華厳の滝などが有名ですが、これらのほかにも、あまり知られてはいないですが面白い場所がたくさんあります。「もうひとつの日光」と呼ばれる、一般的な観光ではなかなか見られない、隠れた史跡や名所がそれです。

安産を願うお堂は将棋の駒がいっぱい

香車堂（きょうしゃどう）

日光市山内2300（日光山 輪王寺）
TEL0288-54-0531（日光山 輪王寺 教化部）

東照宮・二荒山神社の裏手に、約１kmほどの石畳の道が続きます。この道を少し進むと、日光開山の祖である勝道上人を祀る開山堂の隣に、将棋の「香車」の駒が並ぶお堂が見えてきます。これが「香車堂」です。将棋で真っすぐに進む香車になぞらえて、香車のように真っすぐに生まれてくるようにという安産の神様として信仰されています。子どもを産む女性がこのお堂の駒を借りてきて安産を祈願し、無事に元気な赤ちゃんが生まれたら、そのお礼に新しく駒を作り、借りてきた駒と一緒に返すというならわしです。出産を控えた女性の皆さんにとっては、一度は行ってみたい場所ですね。

何回通せるか、挑戦してみよう！

運試しの鳥居（うんだめしのとりい）　滝尾（たきのお）神社

栃木県日光市山内230　TEL0288-54-0535（二荒山神社）

石畳の古道は、うっそうとした杉木立の中を通り、日光二荒山神社の別宮・滝尾神社へと続きます。石段を登った神社の入口には、真ん中に穴が開いた鳥居があります。これが「運試しの鳥居」です。この穴に向かって３回小石を投げ、1つでも入ればその日はいいことがあるとか、３回とも穴を通れば願い事が叶うなどと言われています。早速チャレンジしてみると、これが以外に難しいのです。簡単そうでなかなか入りませんから！

この近辺には、ご紹介した香車堂や運試しの鳥居のほか、親指と小指だけで葉を結ぶことができれば願いが叶うという「縁結びの笹」や「白糸の滝」など、見所スポットが満載です。どのスポットも訪れる人が少なく、いつもひっそりとしていますが、時には喧騒を離れて、静かな「もうひとつの日光」を楽しんでみてはいかがでしょうか?!

▲その昔、石職人が大谷川の河原から石を採取するために石を割ろうとしてノミを打ち込んだところ、石から血がにじみ出てきたため掘り起こしてみると、それは大きなお地蔵様でした。肩の傷はその時のものだそうです。

今もなお、母を思い、日光を見つめる

追分地蔵（おいわけじぞう）

日光市今市117
TEL 0288-22-4804

日光街道と例幣使街道の分かれ道に祀られていることから、追分地蔵と呼ばれています。このお地蔵様には、日光の含満ケ淵の親地蔵や源頼朝の奥州征伐にかかわる話など、多くの伝説（それは不思議な伝説です！）が残されています。石でできた座ったお地蔵様としては北関東一の大きさで、市の文化財に指定されています。毎年８月23日に行われる二十三夜祭と９月24日に行われる千灯供養祭には大勢の参拝者が訪れます。

身体の悪い所を叩くと病気が治る？

向原たたき地蔵尊（むかいはらじぞうそん）

中小来川（小来川の西南）の向原

この地蔵尊は、享保19年（1735年）８月、八代将軍徳川吉宗の時代に地元の人たちによって祀られました。たたき地蔵尊という名前のいわれは、自分の身体の悪い所とお地蔵様の同じ所を小石で軽くたたくと、その病気やケガが治るとされたことによるものです。衆病悉除（しゅうびょうしつじょ）、身体堅固（すべての病を取り除き、心も体も丈夫になること）の御利益があると言われ、そのためにお地蔵様の身体には無数の窪みがあります。毎年５月24日の夕方６時から縁日が開かれます（雨天決行）。

現代経営にも生きる尊徳翁の思想

報徳二宮神社（ほうとくにのみやじんじゃ）

日光市今市743
TEL 0288-21-0138

旧今市市の大通りの裏側に位置するこの神社は、二宮尊徳翁を御祭神とし、学問・経営の神様として人々に親しまれています。

薪を背負って本を読む、幼名二宮金次郎としてのほうが有名かもしれませんが、600以上の藩や村の財政再建や復興を成功させ、晩年は日光神領の開発に尽力し、安政３年（1856年）今市にて70歳で死去しました。今なお、尊徳翁の思想や方法は、数多くの企業や経営者の中に生き続け、現在も多く実践されています。

? ナゾの“天海大僧正”　謎シリーズ Vol.2

▶世界遺産『日光の社寺』の一つ慈眼堂

世界遺産『日光の社寺』の中の一つに『慈眼堂』という御堂があります。場所は輪王寺が管理する徳川三代将軍家光廟『大猷院』の裏手方面で、静寂の中にひっそりとした佇まいを見せており、知る人ぞ知るといった風情です。『慈眼堂』は日光山貫主でもありました天海大僧正（慈眼大師）の廟所です。実は、天海大僧正こそ明智光秀、その人であったという話、今回はその謎に迫ります。

ご存じのように、明智光秀は本能寺の変で天下を取ったものの、わずか九日後に武者狩りの土民に竹槍で殺されたとされています（通称・三日天下）が、殺されたのは影武者で、それ以降、光秀は南光坊天海と名乗り、豊臣家をつぶすために徳川家のブレーンとなったという説があります。一方、天海大僧正は初期の江戸幕府『黒衣の宰相』として君臨し、幕府基盤を作った影の人物といわれています。また、日光山においては『日光中興の祖』と崇められています。その天海大僧正が明智光秀と同一人物である：その根拠は：かいつまんで主なる根拠を列挙してみます。

㋑天海大僧正の前半生について出自や生年等が明確でない。確実性のある経歴等は光秀の死後以降とされる。㋺日光東照宮の建物や装飾に明智家の家紋である桔梗紋が多数ある。㋩日光市内に元々あった『明地平』を、天海が懐かしい響きだといって『明智平』と改名した。㋥比叡山に光秀の死後以後の年に光秀から寄進された石碑がある。㋭京都の慈眼寺には光秀の木像と位牌が祀られている。㋬童謡『かごめかごめ』に出てくる『後ろの正面だぁれ』は、光秀の出身地岐阜県可児市から日光の慈眼堂を望んだ時、後ろの正面は光秀の肖像画を唯一所蔵している、大阪府岸和田市の本徳寺になる、また『鶴と亀』は東照宮家康公墓所の側近にある鶴と亀のことで、鶴＝天、亀＝海で即ち天海が家康公の側にいて天下を操るという意味。㋣それより何より、天海は豊臣家を滅ぼすことに容赦なかった（光秀は自分を陥れた秀吉を恨んでいた）等々：。

もちろん、反論・反証もたくさんあることを付け加えます。

さて、この謎には諸説ありますが、定かではありません。ここが謎の面白さです。

◀明智光秀像（本徳寺蔵）

▲天海大僧正像（日光山輪王寺蔵）

▼慈眼堂の裏手にある天海大僧正の墓所

「栃建協（とちけんきょう）」：一般社団法人栃木県建設業協会の略称。各地域に根付いている建設業者が情報をお届けしています。